

令和8年熊本地震に係る
第17回政府非常災害現地対策本部会議
第24回災害対策本部会議 議事録

日時：令和8年8月17日（月）16：00～

会場：県庁防災センター2階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）今後の気象の見通し

- ・別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

- ・別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

- ・別紙「国資料」により説明（経産省、国交省、環境省、防衛省）
- ・その他の報告については以下のとおり。

①厚生労働省

本日、上野厚生労働大臣が熊本入り視察を行っている。八代市と氷川町の高齢者施設、保健所や避難所などを視察した後、熊本県庁で木村知事との面会や政府現地対策本部など防災センターの訪問を予定している。

②農林水産省

農業用水の確保については、熊本県と協力しながら試験注水も含めて順次進めている。少しずつだが毎日進展しているので、引き続きしっかりやっていきたい。

また、熊本県はトマト、イチゴの大産地だが、特にトマトについては、今日も定植をしているというような大事な時期であり、これから栽培期間、水も確保しなければいけないという状況である。農水省としても、しっかりと営農再開に向けての筋道を整理して、支援をしていきたい。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

令和8年熊本地震発生から明日で3週間、改めて私からもお亡くなりになられた方に哀悼の誠を捧げる。ご遺族の皆様にも心よりお悔やみを申し上げる。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、一つでも大きな希望というものを持てるように、これからも全力を尽くして参りたい。

これまでの知事からのコメント、また、県各部局、国の各省庁からの報告と重複するところであるかもしれないが、私から何点かコメントさせていただきたい。

まず道路について、南九州自動車道の通行止めになっている区間のうち、明日8月18日6時を目途に、八代南ICから田浦IC間について一般車両の通行が可能になる。これは先日14日に九州自動車道全線での一般通行、一般車両との通行が可能になったことに続いて、関係者皆様の多大なご尽力によって実現できたものである。引き続き、通行止めになっている区間を含め、高速道路の速やかな復旧を進め、インフラ復旧にも全力を尽くして参る。

次に緊急的な公費解体について、本日より八代市および氷川町において、二次災害のおそれがある家屋等の緊急的な公費解体を始めた。被災地の復旧復興に向けて、この公費解体を着実に進めるとともに、環境省としても全力で歩みを進めて参る。

次に農業生産について、熊本県はトマトの生産量日本一、そしてイチゴは全国第三位という大産地であり、その主な産地は八代市、氷川町である。この生産を支えているのは農業用水であって、その用水路等が甚大な被害を受けている。この農業用水の確保に向けては、全国から農業土木の技術者にお集まりいただいて、八代平野地区や氷川大堰掛かりで上流の幹線水路から順次通水試験を行いながら復旧作業を進めている。併せて、排水ポンプを活用した農業用水の循環事業や施設園芸農家への給水所の設置も実施している。トマトはまさにこのお盆明けこの時期から定植が始まり、イチゴは9月中旬からということを知っている。熊本の美味しい農産物を生産者の皆様が安心して作り、全国の皆様にお届けできるよう国としても全力を尽くして参る。農家の皆さんから本当に私も力をいただいたコメントを預かったのでこの場を借りてお伝えしたい。

「国からこれまでの災害に本当に助けてもらった。だから我々が生産を続けるのは義務だ。」そのような力強い言葉を生産者の方が述べられていた。その思いに私共も応えて参りたいと思っている。私自身、避難所を回り続けているが、色々な環境、食料を整えつつあると思っている。引き続き取り組みを続けて参る。

次に支援物資、食料の分配について、避難者間、とりわけ在宅避難者と避難所におられる避難者との間で、不公平感や疑念が持たれる場合があるように聞いており、そういったことが無いように運営上の工夫が必要だと感じている。この工夫については、昨日、KVOADの皆様と意見交換をする中で、意見、今後の対応方針のすり合わせを行った。ボランティアの皆さんにもご協力いただきながら、避難所がギスギスした環境にならないように配慮して参りたい。

また、今後ボランティアの皆様で見守り等を支援いただくようお願いした。また、被災者支援にコミュニティ再生の一環として取り組んでいく重要性などの意見交換をし、認識を共有したところである。応急仮設住宅の建設が始まり、いよいよ今月末には完成引き渡しというところが出てきている。

また、地元の皆さんに愛されている飲食店が営業再開したという明るい兆しが一つ一つ出てきている。そして、避難所において、あるいは在宅避難の皆様との間で、この県民皆様の相互の助け合いの姿というものを私は目にした。また、全国から支援に来られた自治体の皆様や、ボランティアの皆様と地域の皆様との助け合い、そして交流が深まっている状況も聞かえている。こうして多くの助け合いによって熊本の復興が着実に進んでいくこと、そして有明高校の球児たちが希望をもたらせてくれていること、そのことに感謝を申し上げながら、我々とすればこれまで以上に気を引き締めて取り組みを進めて参る。